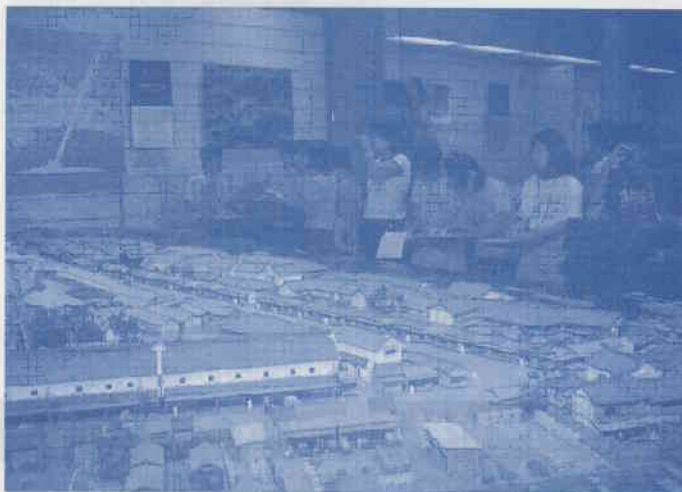


佐倉市教育センターだより Vol.3

平成16年6月7日発行 / 佐倉市教育センター / TEL.043 (486) 2400

佐倉の教育力を生かす!

本年4月の校長会議の席上で、渡貫市長が、「宝の山」のお話をされました。みなさんもお存知のとおり、佐倉市は、歴史・自然・文化に関する教育素材の宝庫であります。また、教育施設も大変充実しています。そして、生涯学習にはげむたくさんの方がいらっしゃる市でもあります。



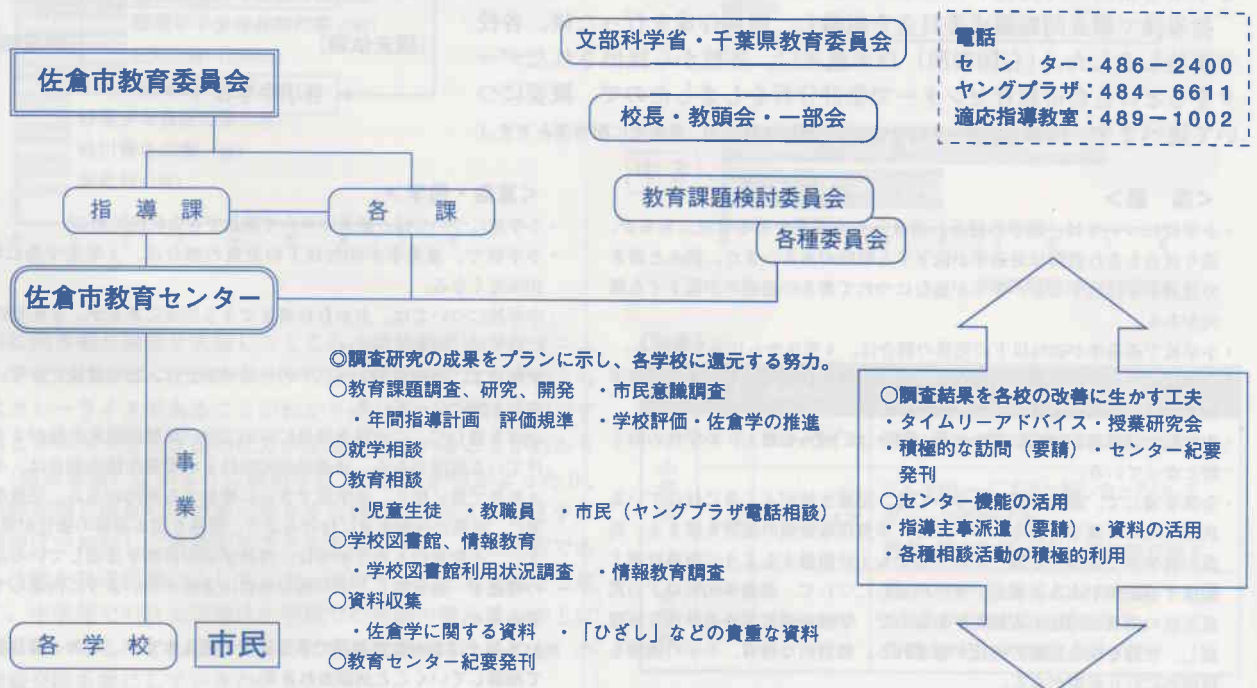
歴博利用学習の様子（寺崎小児童）

この「宝」を若い方々の生涯学習の基礎の育成をめざして構成したならば、市長の言葉どおり「人材の産地」としての佐倉の教育が、いっそう推進されるものと確信します。

佐倉市教育センターは、新たに生涯学習も視野に入れ教育課題の調査研究に邁進していきます。本年度もよろしくお願いいたします。

所長 大野 尊史

佐倉市教育センターの事業紹介と関係



これからの家庭教育に望むこと

社会の急激な変化を背景に、価値観が大きく揺れ動く中で、人が長い人生をいきいきと生きるため、従来の学校中心の教育が見直され、あらゆる世代の、あらゆる生活の場における生涯にわたっての学習が重視されるようになってきました。そのような中、平成16年度佐倉市家庭教育学級運営研修会が各市内幼小中学校の家庭教育学級の主事、運営委員の役員の方々が参加し中央公民館で開催されました。今回、運営研修会に先立ち、高宮教育長より「これからの家庭教育学級 - 地域で育て、みんなで子育て - 」をテーマに講演が行われました。

講演では、これからの佐倉を支える子どもたちを育てるために、家庭に望むこと、家庭教育学級で目指す方向性・学んでほしいこと等を、身近な具体的活用例を出して、わかりやすく話されました。参加した学級生も真剣なまなざしで講演に耳を傾け意欲が感じられ、大変有意義なものとなりました。以下、講演の内容を報告させていただきます。

(小山成志)

1. 家庭に望むこと

子どもがよりよく育つために…家庭・地域の教育力の向上が必要。

- ・家庭で育ててほしいこと。
善悪の区別をしっかりとつけさせる。
基本的な生活習慣をしっかりと身につけさせる。
- ・地域で育ててほしいこと。
叱る(戒める)・褒める→期待をもって地域の子どもを育ててほしい。

2. 家庭教育学級で目指す方向性

自分の幸せだけでなくみんなの幸せを考える人(子ども)の育成。
地域で家庭教育学級を開設……………希望
学校だけでなく地域にも広げたい。…………課題
自治会の支援体制の整備をさらに進めてほしい。
子ども会の在り方について…………子育てに関する悩みや相談もできるように考えてほしい。

3. 家庭教育学級で学んでほしいこと

子どもの発達過程を大切に、再確認する。

- ※発達段階での十分な教育と養育。
子どもたちに多くの体験をさせることの大切さ。

4. 今後の家庭教育学級に望むこと

- 家庭教育学級生(保護者)の1. 教養を高めてほしい。
2. 家庭教育学級生相互の関係作りを促進してほしい。

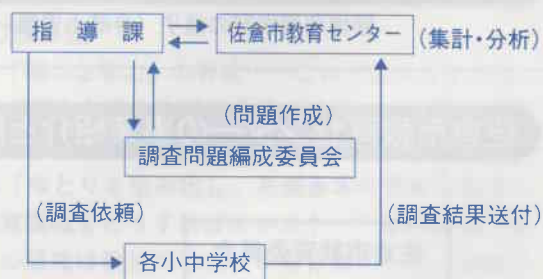
家庭教育学級で学んだこと……行動に移す。(意識が大切)

- ↓
学校の保護者に広めてほしい。
↓(支援サークルを作る)
近所の相談の場として広めてほしい。
↓ ※核家族・少子化で悩んでいる人が多い。
地域には人材が豊富。(※積極的な活用をしてほしい)
- ・地域の教育力の向上につながる。
 - ・家庭への支援の向上につながる。
 - ・人とのつながりが強固になる。

平成15年度 学習実施状況調査の分析概要について

本年、2月上旬に佐倉市教育委員会では、小学校及び中学校の学習指導要領に基づく、国語と算数・数学の基礎的な学習の一部について、その実現状況を調査し、今後の指導の改善に役立てるための調査を実施いたしました。対象は小学校1年生から中学校2年生まで(中学校3年生も希望)で実施いたしました。

指導課で調査問題編成委員会を組織し、問題作成を行った後、各校で実施しました。(右図参照)14年度末に、各校から提出されたデータをもとに佐倉市教育センターで集計分析をしましたので、概要について述べます。(※詳しいデータについては、既に4月上旬、各学校に配布済みです。)



<国語>

- ・小学校については、漢字の読み、書きともに満足できる状況にあるが、送り仮名を含む設問は通過率が低下する傾向がある。また、読みと書きの通過率を比較すると、学年が進むにつれて書きの通過率が低下する傾向がある。
- ・小学校で通過率が60%以下の児童の割合は、4年生から10%を超える。
- ・中学校については、漢字の読みは、満足できる状況である。また、漢字の書きは、読みと比較して低い傾向がある。
- ・中学校で通過率が60%以下の生徒の割合は、20%を超え、小学校の約2倍となっている。
- ・全体を通して、漢字の読みについては、児童生徒がよく身に付けている状況である。漢字の書きについては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、当該の各学年で指導する他、次の学年でも十分指導するように指導計画に配慮する必要がある。また、学年が進むにつれて、通過率60%以下の児童生徒の割合が増加する傾向があるので、学習指導要領の基準性を再確認し、習熟を図る指導の強化が望まれる。個別的な指導、小中の連携も積極的に行う必要がある。

<算数・数学>

- ・小学校については、結果について満足できる状況にある。
 - ・小学校で、通過率が60%以下の児童の割合は、4年生で急に増加し、10%近くなる。
 - ・中学校については、おおむね満足できる状況にあるが、2年生の方程式については、通過率が低い。
 - ・中学校で、通過率が60%以下の生徒の割合は、20%前後となり、小学校の約2倍となっている。
 - ・全体を通して、この調査項目については、比較的児童生徒がよく身に付けている状況である。通過率が60%以下の児童生徒の割合は、小学校の4年生で急に増え、中学校でさらに増加する傾向がある。児童生徒が確実に、計算の技能を身に付けるよう、習熟を図る指導の強化が望まれる。また、小学校の4年生からは、当該学年の目標を達成しているかどうかの確認を一層重視し、次年度の学習に支障が無いように指導していく必要がある。
- ※61%以上はおおむね満足できる状況と考えますが、なお一層目標を高めて指導していくことが望まれます。

(小山成志)

学校教育と生涯学習

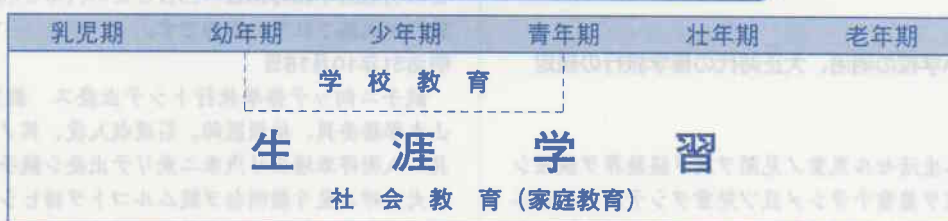
— 佐倉市の生涯学習 —

生涯学習とは、自己の充実や生活の向上のために、幼年期から高齢期に至る人生の各段階での課題や必要に応じて、自らの意思にもとづき自己に適した手段・方法を選んで実践する学習活動です。学校教育は、その中で幼年・少年の時期に中心があり、生涯にわたる学習や生活の基礎を築く大切な役割をになっています。

これまでの変化のゆるやかな社会では、学校で学んだことがその後の生涯にわたって生かすことができたので、学校教育で学んだ知識を活用して生活していくことが可能でした。しかし、変化の激しい現在の社会では、学校で学んだ知識や技能など陳腐化することも早く、学校を卒業した後も新しく出現する知識や技術を学ばないと十分な生活が送れなくなっています。また、日本人の平均寿命も伸び、職業をやめた後、充実した生きがいのある人生を送るためにも、生涯学習は必要性なことになってきました。

そこで文部科学省では、多様な学習の機会と場を整備し、学習の機会や学習の成果を活用できる場に関する情報を提供することにより、人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会である「生涯学習社会」の実現にむけて、様々な取組を進めています。

生涯学習のモデル —生涯にわたる学習—



佐倉市・佐倉市教育委員会でも、生涯学習課を中心として、市全体で生涯学習に取り組んでいます。平成11年3月に策定した佐倉市生涯学習推進計画に基づき、推進体制の整備、学習機会の拡充、施設の整備充実の3つを柱としてその施策を展開しています。「生涯学習まちづくり推進会議」で各種団体や市民の代表委員の意見を聞き、佐倉市における生涯学習の方向を決めるとともに、「われら学び隊」や「子ども遊び場じてん」などの生涯学習機会の提供ハンドブックを作成して、それぞれの時期にあった学習機会の提供をしたり、施設の充実を図るよう努力しています。

生涯学習課主催事業では、子どもの健全育成を中心とし、学校教育と深く関連した事業も多く実施されています。家庭教育学級は、市内幼小中学校各学校に開設されています。ここでは、子どもの発達段階に応じた家庭内教育の望ましいあり方や留意点を学習しており、その運営の支援をしています。生涯学習では、その性格上学ぶ側の主体性が重んじられているため、学習を必要としている人が、学習者になるとは限らない場合がある（学んで欲しい人に学んでもらえない）という問題点もあります。そこで、家庭教育の推進では、幼児期子育て学習として、児童の保護者がほぼ全員集まる就学時健康診断の際に講義をして、保護者の方にとって悉皆となるよう、学習機会を広げる努力をしています。

また、3年前から開始された通学合宿は、「地域社会の施設で一定期間宿泊をしながら、学校に通い、日常生活を子どもたちで行い、集団生活の中で不足しがちな生活体験を身につけさせる」という目的で行われています。昨年は、5校で行われましたが、今年は6校で行われるなど全市に広げていく考えです。京成佐倉駅前にあるヤングプラザは、

児童生徒の放課後の居場所をつくるというコンセプトで設置され8年目になりますが、小中学校の児童生徒の放課後の憩いの場所として定着してきています。そのうえ、高校生や大人の居場所にもなっています。このように、学校での教育と生涯学習における教育は、車の両輪のように関連しながら、子どもたちを教育していくものであると考えられます。その他にも、自然体験事業として各段階に応じたキャンプをしたり、子ども会のリーダーの養成の講座をしています。この他、生涯学習の最前線である図書館や公民館等においては、市民の生涯学習活動が充実するような各種の事業を実施しております。

私たち教職員も、児童生徒が学校に在学している間の指導だけでなく、生涯にわたって学び続けることのできる大人になるよう、将来を見据えての教育をしていくということが大切です。児童生徒は、地域の中で生活し育っていくものです。そのためには、地域社会の中で学習をしていけるようにすることが必要です。例えば、学校に地域の方や保護者の方をゲストティーチャーとして来て頂き、学ぶ機会を多く持つようにしたり、児童生徒が、地域にある公共の施設、公民館や博物館の活用やその利用方法を学んでいくことにより、将来にわたって地域で学習していける素地を育成していくことが大切であると考えられます。また、地域の自然に興味を持ち、見たり触ったり、動植物と触れ合うなどして、地域の自然を学んでいくことなども同様です。このように、生涯学習の視点から考えると、児童生徒が地域を中心に、学んだり、学ぶ方法を身につけていけるような指導、支援をしていくことが今後ますます重要になってくると思われます。

(沼田正信)



～修学旅行の変遷と現状～

その1

はじめに

わが国の小学校は、明治5年(1872)8月の「学制」によって、すべての国民を対象とする初等教育機関として発足し、今日に至るまでの百数十年の歴史をもって発展してきました。

その中で、どこの学校でも学校行事として実施されている「修学旅行」は、明治時代よりすでに実施されていることが、各校の記録から伺うことができます。

このシリーズで、佐倉市近辺の小学校の修学旅行の変遷を取り上げることに、皆さんの実施の手がかりにさせていただければ幸いです。

1. 佐倉尋常高等小学校の明治、大正時代の修学旅行の規定

修学旅行

狭小ナル区域内ニ生活セル児童ノ見聞ヲ廣メ経験界ヲ擴張シ似テ智的方面ノ内容ヲ豊富ナラシメ且ツ児童ヲシテ困苦欲乏ニ耐ヘ師弟ノ情誼、朋友ノ情誼ヲ厚クシ、其ノ感情意思ヲ練ル上ニ於テ有効ト認メ年々十二回尋常三學年以上ノ修學旅行ヲ行フ之ヲ實行スルニ際シテハ第一各児童ノ經濟的事情ト旅行里程等ヲ考ヘテ目的地ヲ選定ス凡児童ノ三分ノニ以上ノ旅行者アルニ非ラサレバ決行セズ當日旅行セザル児童ハ授業ヲナスコトトセリ(佐倉尋常高等小学校沿革史より)

現在、各学校でどのような修学旅行の規定ができていますでしょうか。昔は、・・・という言葉を出すのはおこがましい感じがします。

2. 弥富尋常小学校における修学旅行

(1) 修学旅行前の積立

明治29年7月15日

第一回父母會を開ク來會者各尋常校訓導、村長、村會議員、各區長、生徒父兄等總ベテ57名ナリ學校ト家庭トノ連絡ニツキテ談話シ村長ヨリ學校新築ノ急須ナルヲ談話セリ本日父兄ノ協賛ヲ得テ決定セシハ修學旅行費トシテ毎月各人金3錢宛學校ニ貯金スルコトナリ

修学旅行の積立を決定したことが記されています。前出の「佐倉小学校の規定」と合わせ読んでいただくと、当時の世相が浮かびあがってくるのではないのでしょうか。

(2) 修学旅行の実際

その1—徒歩2泊3日の旅行

明治29年11月5日

2泊ノ豫定ニテ修學旅行トシテ出發シ生徒44名入江訓導之ヲ率キテ成田ニ至リ同高等小學校ヲ參觀シ酒々井町岩橋尋常小學校ヘ歸リテ1泊ス

11月6日

岩橋校ヲ出發シ佐倉東尋常小學校、臼井尋常高等小學校ヘ立寄印旛湖ヲ經テ宗像村師戸根本為五郎方ニ宿泊ス

11月7日

師戸ヲ出發シテ帰校セリ此ノ行押尾村長ヨリ金3円捨垣廉夫ヨリ金1円50錢ヲ途中ノ茶菓料トシテ贈ラルヨリテ帰路此ノ剩餘金ヲ以テ佐倉ニテ一行ノ撮影ヲナシテ之ニ旅行日誌を添エテ前両氏ヘ贈レリ根本為五郎モ頗一行ヲ厚遇シテ且宿泊料も受ケザリシガ強フ一人前金拾錢宛ヲ贈レリ

この年度の3月28日・29日1泊2日で、春季修学旅行を実施しています。

3月28日には、弥富村→八街村→芝山→三里塚(旅人宿に泊)3月29日は、御料局牧場の見学→無事帰校とありますが1日目に雨具を用いず8時間余雨にうたれ、8里余も歩いたにもかかわらず無事帰校したのは、忍耐と勇気とを養成するための好機だったと記されています。現在でしたら・・・?翌明治30年度には九十九里方面へ2泊3日の生徒旅行が行われております。

その2—汽車利用の1泊2日

総武線両国～佐倉間が開通したのは明治27年7月です。

佐倉～銚子間は明治30年6月に開通されました。驚くべきことに明治31年10月18日・19日とこの汽車を利用1泊2日の修学旅行が実施されているのです。

明治31年10月18日

銚子ニ向ッテ修學旅行トシテ出發ス 教員1名 生徒58名山本學務委員、捨垣医師、石渡収入役、其ノ他附添父母5名ト共ニ八街停車場ヨリ汽車ニ乗リテ出發シ銚子ニ着スルヤ徒歩ニテ犬吠岬ニ至リ燈明台ヲ觀ムルコトヲ請ヒシニ容易ニ許サレズ漸クニシテ4年生6名ト教員、附添者ノミ許サルソレヨリ犬吠岬ヲ巡リテ銚子町吉野屋方ニ投宿ス此ノ夜銚子高等小學校訓導川和田常次郎ヨリ生徒一同ヘ菓子ヲ贈ラル

明治31年10月19日

朝、旅館ヲ出發シ銚子高等小學校ヲ參觀シ汽船ニ乗リテ利根川ヲ瀾リ津ノ宮ニテ上陸シ春取神社ヲ参拜シ佐原町ヲ見物シ終列車ニテ佐倉ニ至リ出迎ヒノ生徒父兄ニ導カレテ午後10時過無事帰校セリ

その3—汽車利用1泊2日東京への旅行

明治33年10月23日

2學年以上ノ男女生徒ハ修學旅行トシテ東京ニ向ッテ出發ス四街道ヨリ汽車ニテ上京シ先、浅草ナル工業學校付属徒弟學校ヲ參觀シテ徒歩九段ニ至リテ靖国神社ヲ参拜シ遊就館ヲ一覽シソレヨリニ重橋ニ至リ皇居を拜シ楠公ノ銅像ヲ仰ギ京橋ナル農商務省商品陳列館ニ至リテ陳列品ヲ見ソレヨリ新橋停車場勸工場等ヲ巡覽シ銀座の夜景ヲ眺メツ京橋ニ至リ鉄道馬車ニ乗セシメテ浅草橋ニ至リ本所元町佐倉屋倉持岩五郎方ニ投宿ス時ニ午後6時半ナリ

明治33年10月24日

早朝旅館ヲ出發シ浅草ニ至リテ水族館ヲ見、上野ニ至リテ博物館・動物園等ヲ縦覽シ帰路吾妻橋ヨリ川蒸氣船ニテ兩國ニ至リ午後4時半本所發ノ汽車乗シ6時頃佐倉ニ着シ途中父兄ノ多数ノ出迎ヒヲ受ケテ一同無事帰校セリ

同校生徒58名 同附添者捨垣、鈴木兩學務委員捨垣医師其ノ他父兄5名ニテ此ノ行生徒一同ヘ菓子ヲ 小泉郡司(吉田次郎祖父)同菓子ヲ壇谷松太郎、同捧飯ヲ岩富町父兄(出迎ノ時)ヨリ贈ラレタリ (以上 弥富小学校沿革史より)

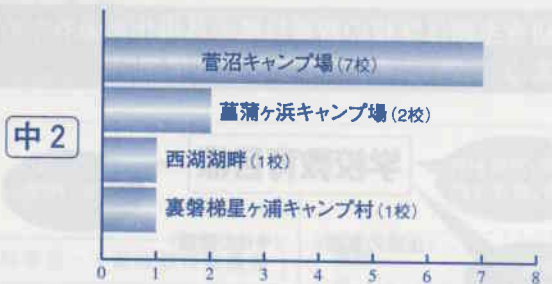
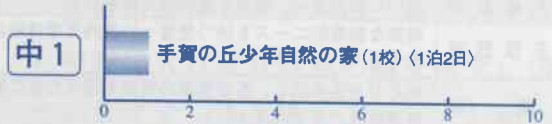
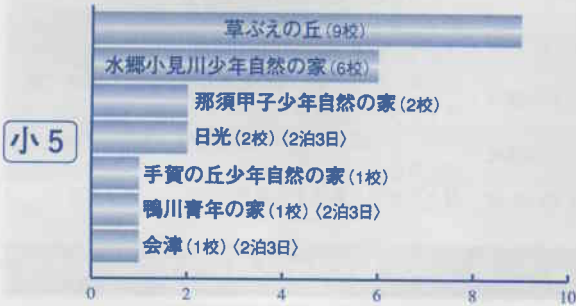
(渡部 八重子)

平成15年度

宿泊を伴う学校行事



(資料：学務課)



※自然教室はすべて2泊3日

数校に聞き取り調査を実施したところ、自然教室の夕食メニューは小学校ではほとんどがカレーライス、中学校では2食のうち1食はカレーライスであることがわかりました。これは一例ですが、同じメニューでも支援の仕方が配慮されていることがわかります。(別表参照) このように宿泊学習では場所が似かよったり、活動内容が同じ様なものであったりする例がたくさんあります。小中学校区で相談して調整することも大切ですが、同じ内容であっても活動を発達段階に応じて工夫・改善することも大切だと思います。中学校での自主活動は小学校での活動の積み重ねの上に成り立っているものであるということを再認識するためにも、小中の情報交換を密にしていきたいものです。

(別表)

学校	学年	食事メニュー	取り組みの様子(例)
小学校	4年	カレーライス	教員、親と一緒に調理する。ご飯は持参する。
	5年	カレーライス	どんなカレーにするか話し合ったりしてグループ活動する。教員、親の支援が減り、主体性が増す。
中学校	2年	カレーライス	薪づくりから後始末(ゴミの処理)まで係を決めて主体的な活動が増す。栄養のバランスを考えサラダ付

(小長井 博子)

研究主題再考

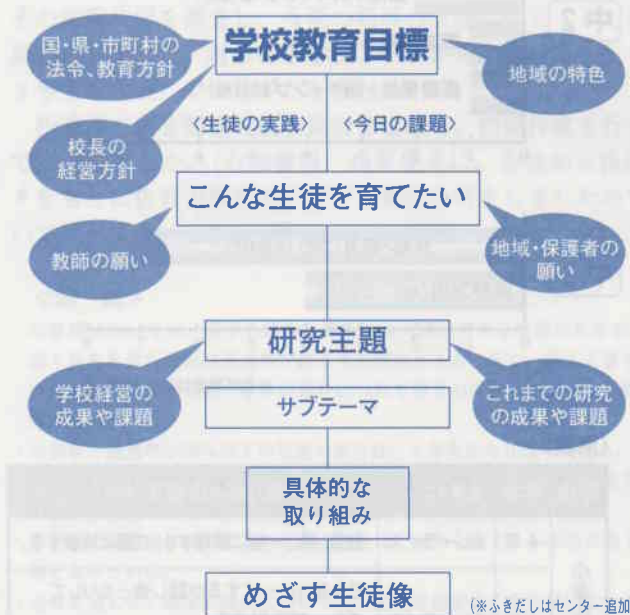
各幼稚園・小中学校より平成16年度の研究推進の方向が示されました。(表1) 各校の特色ある取り組みに今後の成果が期待される場所であり、ここでは研究の要である研究主題について考えてみました。

表1) 平成16年度研究推進事業

(資料：指導課)

研究領域	研究主題	研究領域	研究主題
健康教育	幼児が健康な生活を送るためには環境をどのようにしたらよいか	小中連携	学校・保護者・地域の連携を基盤とした小中連携による生徒指導の充実と学力の向上を図る(他数校)
人間関係教育課程	豊かな心情の育ちを目指して 少人数保育の充実を目指し	道徳	よりよく生きようとする心豊かな子どもの育成を目指して
学力向上	一人一人の児童に「確かな学力」を身につけさせるには、どうすればよいか	国語	基礎基本の定着を目指して
教科指導・国語	基礎基本を身につけ、学ぶ楽しさを味わえる児童の育成	学社融合	主体的に学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成
算数	進んで算数的活動に取り組み、確かな学力を身につける児童の育成	国語	互いの立場や考えを尊重して、言葉で伝え合う児童の育成
佐倉学・体力健康	郷土佐倉に親しみ、未来に向かって元気に活動する〇〇っ子の育成	道徳	よりよい生き方をめざす確かな実践力を育む道徳教育
体育・国際理解	一人一人の児童にやさしさとたくましさを身につけさせるにはどのようにしたらよいか	地域コミュニティ	地域とともに、子どもを育てるために学校運営をどのように進めればよいか
健康教育	自ら進んで健康づくりに取り組む子どもの育成	学力向上・佐倉学	自ら学ぶ意欲と喜びを育てる学習指導の工夫
学社融合	豊かな心を持ち、よりよい生き方を身につけ進んで実践することのできる児童の育成	福祉教育	高齢者・障害者との交流を通して「思いやりの心」を育てる
算数	児童に基礎基本を確実に定着させるにはどうしたらよいか	教育指導・全教科	基礎学力の向上のため教科指導はどうあるべきか
国語	基礎基本の定着を目指して	学力向上	基礎基本の定着を図り「確かな学力」を身につけさせるための環境はどうあるべきか
学力向上	生徒指導機能を生かした学習指導のあり方	進路指導	将来の生き方を意欲的に考えることのできる生徒の育成
国語・全教科領域	自らの考えを伝え合うことができる児童の育成	技術・家庭・人権	確かな知識と技術を身につけ、自ら課題を解決していく力を育てる学習指導のあり方
生活・総合	表現力を育てる生活科、総合的な学習のあり方	生徒指導	生き生きと活動し、主体的に自己実現を図ることができると生徒の育成
学校人権教育	互いに認め合い、豊かな生き方をめざして	二期制・教育課程	二期制の試行を通して特色ある教育課程の編成・実施をどうすすめるか
特別支援教育	特別な教育的ニーズを持つ児童への校内支援体制のあり方	二期制・教育課程	学ぶことの楽しさを知り、探究的な学習ができる生徒の育成
二期制	ゆとりを生み出し、基礎基本の充実を図るために教育課程をどうすればよいか	教育活動全般	豊かな学力を育成する教育活動はどうあるべきか

1. 研究主題は学校の教育目標の具現化を図るためにある。(例1：市内A中学校研究構想図)



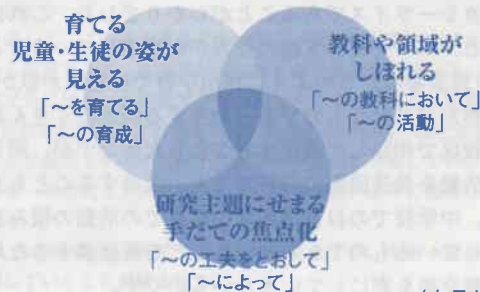
したがって校内研修は新しい教育改革の視点や方向に基づき、学校教育の長期的な展望にたって推進したい。またその内容や方法について保護者はもとより、地域住民等の理解を得られるようにしていくことが大切です。

2. 研究の内容や方法が見える研究主題を設定する

★設定の焦点化

- STEP1** 「確かな学力」の育成……これでは大きすぎる
- STEP2** 「確かな学力を育てる指導法」……教師の指導法を研究するんだという方向がわかる。
- STEP3** 「ゆとりを生み出し、基礎基本の充実を図るために教育課程をどうすればよいか」……**STEP2** 「指導法」の研究は教材の工夫、学習体制の工夫、評価の工夫などいろいろと考えられるが、**STEP3**は研究主題の表し方で教育課程の工夫を重視していることがわかり、研究が焦点化されてくる。さらに、サブテーマで研究教科を示したり、教育課程の特に何についてを明らかに示すのかを示すとよい。

3. 研究主題設定で配慮すること



(小長井 博子)